

窃盗（車上狙い）事件の検証
（8月29日）

総領事館は本年7月にノークロス商業施設内で発生した、邦人被害の車上狙い事件について、被害者とともに現場に赴いて事件の検証を行いました。



検証結果

- 1 日時
土曜日午前10時ころ
- 2 場所
Norcrossの商業施設駐車場内
- 3 被害者
女性1名
- 4 被害品：
現金入りの鞆
- 5 手口

運転席ドアの鍵穴をドライバー様の物でこじ開け、運転席下に隠していた鞆を窃取。

6 被害者の行動（図面参照）

銀行①に立ち寄り、車で②まで移動、②の銀行で現金を下ろし、現金入りの封筒を手にとって車に戻る。

銀行の駐車場で隣にフルスモーク、男性2名（キャップ着用）乗車の大型のSUVが止まる。

被害者は直感でこの車を不審と感じ、すぐに③まで移動して駐車した。この駐車場は午前中ということもあってか、他には車はほとんど止まっていなかった。

「多額の現金があるが、短時間で戻れば大丈夫だろう。」と近くの店に立ち寄ることにしたが、先ほどの不審車両が気になり、「現金を持って外に出るのは危険。」と感じて鞆を運転席下に隠し、ドアロックをして車を離れ入店した。

約5分後に店の外に出て車に向かおうとしたところ、先ほどの銀行で見た不審車両が自分の車のすぐ隣に止まっているのが見えたが、その車両が急発進してその場を逃げ去った。

自分の車に戻り、鍵穴が歪んでいることに気がつき、確認するとドアロックも解除されていて、座席下に隠していた鞆が盗まれていた。

気が動転したが、②の銀行の防犯カメラに先ほどの不審車両が映っていると思い、②の銀行に戻り、銀行の職員に相談したところ、まずは911通報するようにとの助言を得た。

すぐに911に通報するも1、2分はつながらなかった。その後、現場に来た警察官に事情を説明し被害届を提出した。

警察官から事件の受付番号を記したカードを受領し、後に連絡する旨を伝えられた。

後日警察から連絡があり、事件当日の朝からの行動を聴取される。どの時点で犯人に狙いをつけられたのかを判断するためとのことであった。

7 警察の説明

被害場所近辺にはアジア系の人々が経営する店が多く、そういった店の売上金などを狙った犯行がある。

逃走した車両をみているので、もしナンバーが分かれば、捕まる可能性がかなり高い。カメラ画像からは特定の情報が得られていない。

未だ犯人の検挙には至っていない。

8 客観的状況

銀行①から②までの距離が若干遠いため、①の時点から狙われ後をつけられていたかは判明しないが、警察のいう「アジア人を狙う犯行」があるとなれば、その可能性も考えられる。

銀行の防犯カメラは主に ATM や出入口付近に設置され、駐車場までは広くカバーしていない。被害場所の店舗も同様で、駐車場を向いている防犯カメラはなかった。

被害時は午前中で明るい、客（通行人）が少なく、駐車場も空いていた。

車の鍵穴は運転席ドアのみに付いている場合が多く、犯人が被害者の車の運転席側に車を止め、他からの死角を作り、鍵穴をこじ開け犯行に及んでいる。（「たら・れば」の話になるが、車の止める向きが違っていれば、被害はなかったかもしれない。）

9 今回のケースの注意点

多額の現金を所持している場合は、どこにも寄らず最短距離で目的の場所へ移動する。（やむを得ない場合でも目を離さないことが肝心。）

自分の直感（特に悪い予感）を信じて行動する。

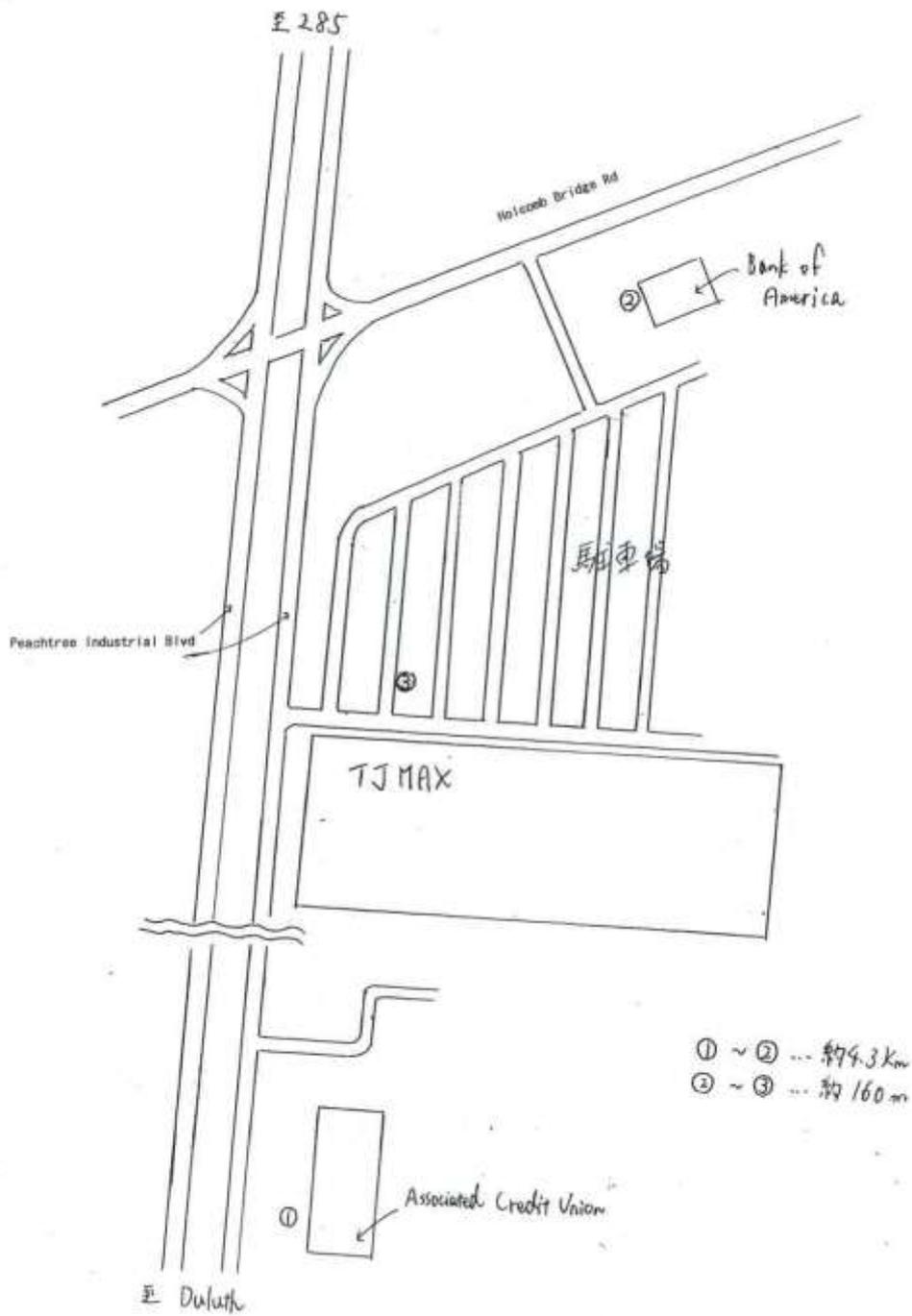
仮に同様の状況（不審車両もしくは犯人との遭遇）に置かれた場合には、身の安全をまず第一に考え、車両の前に立ちふさがったり、車両に手をかけたりしない。（動く車両を止めることができるのはその運転手だけである。）安全確保のうえ、ナンバーや犯人の特徴の確認に徹する。

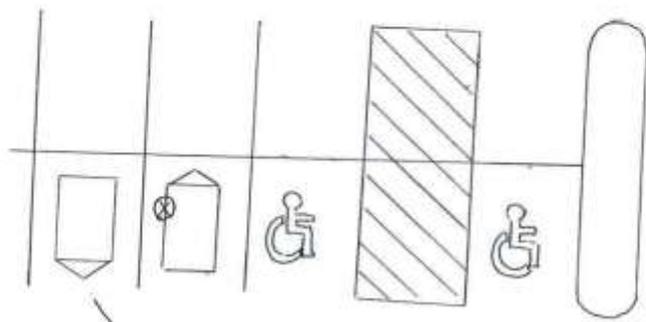
10 備考

日本よりも犯罪発生率が断然高い国に住んでいることを再認識し、自分の普段の行動パターンに隙がないか、安全確保について考える。

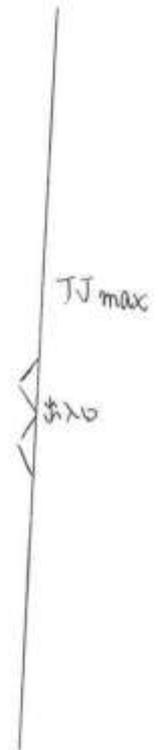
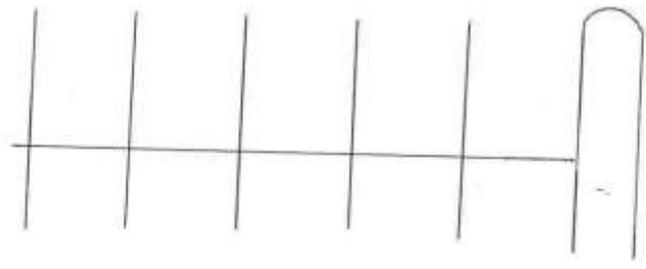
普段よく使う（行く）場所（店舗）であれば監視カメラの位置を知り、車の鍵穴の位置や止める場所、安全区域について考える。

車内に物を残さない。





→ 逃走



被害者が最初に立ち寄った銀行（図面の①）



被害に遭う直前に立ち寄った銀行（図面の②）



被害場所（図面の③）

